

# 「学力」と「心の成長」を保障するキャリア教育

～「やりたい」から「できる」へ！力を結集～

教科・領域 教育課程全般

田布施町立麻郷小学校全学年

## キャリア教育の観点

子どもたち自らが夢と希望をもって、自分のよさや可能性を發揮でき、将来にわたり生き抜く力を身に付けさせる基盤作りとして、確かな学力と自立を支える生活を育成・定着させる教育を学校教育活動の柱に位置付け、学校や家庭・地域社会の力を結集させていく実践です。その主なねらいは次の3つです。

- ① 成長保障につなげる、自立の基礎を育む教育課程の編成
- ② 「心の成長」保障を実現する、豊かな人間関係を基盤とした学習習慣の醸成
- ③ 「学力」保障を実現する、きめ細かな指導・支援の工夫

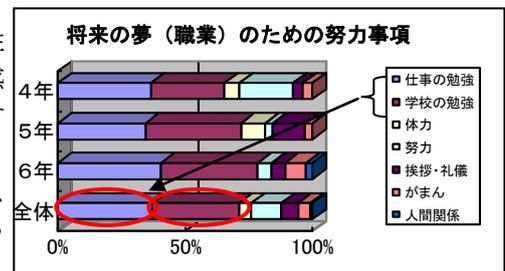
【人間関係形成】【自己理解・自己形成】

## 将来の夢アンケート

年度はじめに、4年生以上の児童を対象に、将来の夢に関わる意識調査を実施した。まず、「将来の夢」については、1位はスポーツ選手で、その他パティシエなど40数種類の職業が挙げられた。しかし、選んだ職業について、「絶対になりたいし、なるための方法もわかる」と答えた児童の割合は学年が上がるにつれて減少し、より現実的な見方になり自己肯定感が下がっている傾向がうかがえた。また、「絶対になりたい」と答えた児童は、職業選択の理由に「その仕事が好き」や「人や親のため」を挙げる割合が高い一方、「なりたい職業に就くのは難しく、なり方もわからない」と答えた児童は、「お金のため」や「自分が楽しむ興味」を職業選択の理由に挙げる割合が高くなっていることも分かった。

この2つのタイプの学力と生活の状況を見ると、「絶対になりたい」と答えた児童は、学力が高く、生活面では、主体性・自主性等に富んでいる傾向が見られた。これらの結果から、自己肯定感を高め、確かな学力と自立を支える生活を養う教育活動を展開することが重要であると考えた。

また、「夢の職業」に就くために努力することを聞いてみると、仕事関連の勉強や学校の勉強をするが7割を越えている。これらの実態を受け、キャリア教育の計画を立案した。



## 成長保障につなげる、自立の基礎を育む教育課程の編成

「学力」や「心の成長」を保障する手立てや支援を行い、将来にわたり生き抜く力を育てる成長保障を確立する。具体的には、「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」の視点を教科等に位置付け、年間計画を作成し、小学校の発達段階を考慮に入れて系統的・計画的な取組を行った。

<実践例－自分がしたいこと>

- ・見学や栽培活動、自然や文化とのふれあい
- ・「2分の1成人式」→
- ・地域学習～総合的な学習の時間「町の自然や文化を生かした町づくり」



<実践例－自分ができること>

- ・社会科学習～「私たちの願いと政治の働き～安全な町づくりの提案」(下写真)
- ・出前講座の活用～アスリート教室、留学生との交流、防災教室、租税教室、他
- ・全校作文～自分がしたいこと、できること、夢中になったことをテーマ別にした意見文

<実践例－社会が求めていること>

- ・外国語活動～「できることや将来の夢を紹介する」
- ・職場体験の受け入れ～「ようこそ先輩」
- ・新聞を活用した授業～社会情勢の把握

子ども達の要望で、水路にふたがついた。(安全な町づくり)



## 「心の成長」保障を実現する、豊かな人間関係を基盤とした学習習慣の醸成

学校教育に求められている課題の一つ「豊かな人間性」を養い、豊かな情操と心身の健全な育成を旨とするためには、まず学習規律や生活習慣の確立が基盤となると考え、家庭や地域社会と連携した「心の成長」保障への取組を行っていった。

### 学習習慣の確立

＜実践例－立腰教育＞

- ・「腰骨を立てましょう」から始まる学習や生活の実践

＜実践例－「学習規律」の徹底＞

＜全校朝会の前の正座→＞

- ・「学習の約束」を発達段階に応じて設定することで、子どもの学力を培う基盤となっていくと考えた。

＜実践例－学校チャレンジ目標の設定＞

- ・「挨拶・くつのかかと揃え・黙って掃除・廊下右側歩行」の励行



### 生活習慣の確立

＜実践例－自主勉強ノートを活用＞

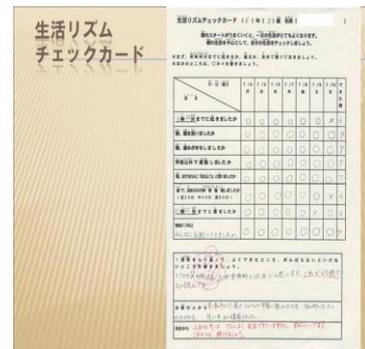
- ・「家庭の手引き」や「麻郷小ガイドブック」の配布
- ・BGR（バリバリ・グングン・ランラン）ノートの活用↓

＜実践例－生活リズムチェックの実施＞

- ・家庭生活の振り返り
- ・家庭対話の推進

＜実践例－地域社会と連携した取組＞

- ・スクールガードとの活動
- ・地域ボランティア活動（奉仕活動、クリ
- ・「ふれあいの会」の実施～地域の方とのふれあい活動の推進
- ・グローインキャンプ（おやじの会主催）の開催



＜クリーン作戦の様子＞

## 「学力」保障を実現する、きめ細かな指導・支援の工夫

学校教育に求められている課題の一つ「確かな学力」を養い、自ら学ぶ意欲の醸成を旨とするために、家庭や地域社会と連携を図りながら「学力」保障への取組を行っていった。

### 指導方法の工夫改善

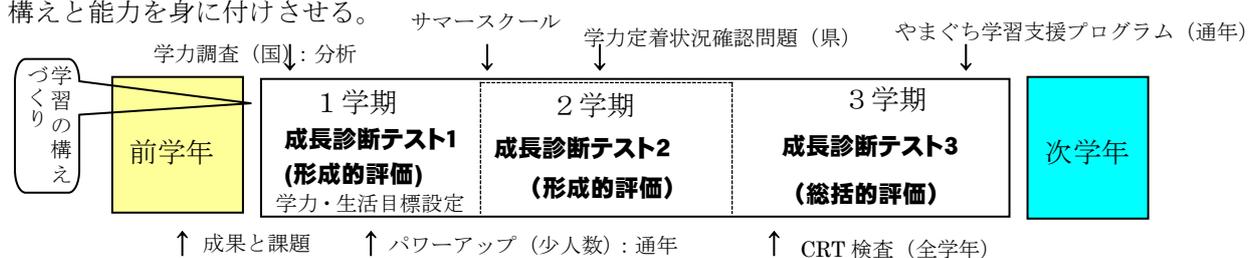
＜実践例－ノート指導と板書の充実＞

- ・対話につながる自分の考え、新たな課題や解決を分かりやすくまとめてノートに書く。
- ・授業の流れや児童の意識の変容、課題やまとめが見える板書、指導案に板書計画を添付する。

＜実践例－成長診断テストの実施＞

○目的

- ・学習と生活の到達度を確認するテストをすることにより、今年度の成果と課題を自覚し、課題を乗り越えた喜びや新しい学年への希望をもたせる。
- ・すべての子どもが自立心を持ち、学年相応の力を身に付けようと努力することにより、学習と生活への構えと能力を身に付けさせる。



○学習目標や生活目標点検例（一部）

年度はじめに基礎学力到達目標を設定し、国語・算数のまとめのテスト問題を作成する。漢字の読み・計算が100点に達成すれば、合格とする。書くことについては、80点で合格とする。

	国語	算数
一年	○ひらがな、カタカナの清音の全てが読めて書ける。 ○配当漢字の全てが読め、8割が正しく書ける。	○20までのたし算・ひき算30問が5分以内にできる。
二年	○配当漢字の全てが読め、8割が正しく書ける。 ○カタカナの濁音の全てが読めて書ける。	○1から9の段のかけ算が5分以内にできる。 ○たし算の筆算・ひき算の筆算30問が、それぞれ5分以内にできる。
三年	○配当漢字の全てが読め、8割が正しく書ける。 ○ローマ字の8割が読めて書ける。	○余りのあるわり算30問が5分以内にできる。 ○かけ算の筆算30問が5分以内にできる。

学習と生活目標が達成できたら、合格証を配布する。達成期間により、金・銀・銅賞に分けられる。



学期ごとに、児童の実態を把握し、課題を見つけ、自作テストの準備や生活目標項目を決定し、実践する。

項目 / 曜日	月	火	水	木	金
廊下・階段歩行	○	○	○	○	○
履き物揃え	×	○	×	○	○
忘れ物	×	○	○	×	○
挨拶	○	○	○	○	○
言葉遣い	○	○	○	○	○

### ＜実践例－学びの形態の工夫＞

- ・授業でスモールティーチャー・学習リーダーの役やガイドをつくり、活用する。
- ・特別活動で、学級委員、児童会リーダー等を育成する。

### 学習環境の整備

#### ＜実践例－授業レベル表による評価＞

- ・指導者（教師側）の学習指導のレベル化を図り、授業改善を行う。

#### ＜実践例－サマースクールや読み聞かせの実施＞

- ・教職員、保護者、地域住民による子どもの学習支援活動を行う。
- ・保護者や地域住民からボランティアを募る。



＜サマースクールの様子＞

## 成果と課題

「学力」保障と「心の成長」保障を行いながら、成長保障につながる教育課程を編成し、全教育活動で実践をした成果を6つ挙げる。

- ① 日々の生活や取り巻く社会に対応した学びが実現し、学び続ける意欲や態度が育成された。
- ② 社会の一員としての自覚や、将来にわたり生き抜く力を付けようとする意識の変革が見られた。
- ③ 児童の自己実現を助ける生活面での環境づくりにつながった。
- ④ キャリア教育の推進による「確かな学力の定着（「学力」保障）」の実践で、自主的に学習に励み、自分に自信がもて、社会的自立に向けての一助となった。
- ⑤ 「豊かな情操と心身の健全な育成（「心の成長」保障）」の実践で、望ましい学習の習慣化が図られ、自らの夢や希望の実現に向けて、粘り強く進んで物事に取り組む基盤づくりができた。
- ⑥ 「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めているもの」の3つの視点から、教育活動を仕組んだことで、高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける子どもの育成につながった。

このように、学校と家庭・地域社会が連携をしながら、「学力」保障と「心の成長」保障を具現化し、「自立の基礎を育む」成長保障につなげることで、キャリア教育のねらいを達成できると確信した。

最後に、学校評価の結果をみると、わかりやすい授業の実施、家庭学習の習慣化、あいさつ、自分の考えを述べるの項目でポイントが年々高くなっている。今後、地域や保護者アンケートの分析と教育課程の改善を行い、子どもアンケートや授業力を高めるPDCAサイクルによる授業改善を積極的に行っていきたい。

さらに、グローバルな視点で社会の形成に参画できる児童の育成をめざし、「日本人としての誇りをもつリーダー」育成につながる教育課程の編成も重視し、地域の特色を生かした教育の在り方を探り続けたい。

